

がくえんふくいんか 4課について...

ヘブル 11章 はしばしば「信仰の しよう」と呼ばれます。始まりから「信仰は」で始まっています。主題が 信仰であり、主体が 信仰であるということです。それぞれの 人物を 説明しながら「信仰によって」と記録しているのは、彼らが 信仰を持ってそのような 人生を 生きるようになったのではなく、信仰が そのような 人生を 生きるようにさせたということです。ひとことでいうと、他の 人々とは 違う 区別された 生き方であったということです。それで 聖書が 彼らについて 証言することは、38節に「この 世は 彼らに ふさわしい 所では ありませんでした」と記録しています。この 節の 原語的 解釈は、「世が 彼らを 何の 價値もない 者とした」という 意味です。

彼らが 世を 價値のない 所だと 思ったのではなく、世が 彼らを 價値がないとしたのです。ですから 彼らは 世から 殺された ひとたちでした。

信仰に 掌握され、信仰につかまれて 肉の 死 という 目的地に 引きずられていく 人生を 生きた 人たち。それが 正しい 道 であることを 知っていた 人たち。石で 打たれ、 試みを 受け、のこぎりで 引かれ、剣で 切り殺されるのが 痛くて 苦痛で 恐ろしかったでしょうし、荒野と 山と ほら穴と 地の 穴とをさまようのが 大変で 不便だったでしょうが、そのすべてを 覆う 神様の 愛と 恵みと 希望 が あったのです。

そのような 人生を 先に 生きてください、父なる 神への 信仰を 最後まで 守ってくださいた 方が イエス・キリストです。それで ヘブル 11章 の 結論は、それに 続く 12章 2-3 節です。

"信仰の 創始者 であり 完成者 である イエスから、目を 留めないで いなさい。この 方 は、ご自分の 前に 置かれた 喜びのために、辱めを ものともせずに 十字架を 忍び、神の 御座の 右に 着座されたのです。あなたがたは、罪人たちの、ご自分に対する このような 反抗を 耐え 忍ばれた 方のことを 考えなさい。あなたがたの 心が 元気を 失い、疲れ果ててしまわないようにするためです。"

ヘブル 人への 手紙 12章 2~3節

* 7月 学院福音化、2課 も 参考にしてください。

<https://jpkodomocom/children/202307/20230702.pdf>